

アイルランド景観レポート



2005.2.15

日航財団・太田正美

目 次

第1章 アイルランドという国

- 1 . 概要
- 2 . 政治・経済
- 3 . 対日関係

第2章 タイディタウン・コンテスト(Tidy Towns Competition)

- 1 . 経緯
- 2 . 概要
- 3 . 2004 年の結果
- 4 . 関連3 コンテスト
- 5 . Tidy Towns 事務局の仕事
- 6 . 課題

第3章 リズモア (2004 Ireland's Tidiest Town)

- 1 . まちの概要
- 2 . コンテスト参加
- 3 . 2004 年の結果
- 4 . 今後の展望
- 5 . おわりに

第1章 アイルランドという国

1. 概要

わが国にとっては、まだまだなじみ深いとは言えないアイルランドは、面積約7万k m²、北海道とほぼ同じ広さのところに、約390万人、静岡県と同じ位の人々が住んでいる。この1/4強の106万人が首都ダブリン居住者である。近年景気が上向きになったこともあり、日本と異なり若者の比率が比較的高いのが特徴である。人口は僅かであるが、全世界にはアメリカをはじめ7,000万人以上のアイルランド系移民が存在する。

人種はケルト系アイルランド人、94%がカトリック教徒である。公用語はアイルランド語と英語であり、実際にはほとんど英語が使われているが、国は第一公用語であるアイルランド語を奨励している。国旗は緑、白、オレンジの三色旗である。

住みやすい国 TOP 10

1. Ireland
2. Switzerland
3. Norway
4. Luxembourg
5. Sweden
6. Australia
7. Iceland
8. Italy
9. Denmark
10. Spain

気候は緯度の高さにもかかわらず、温暖なメキシコ湾流および大西洋から四季を通じて吹く南西風の影響で、一年中安定しており、地域による気温の差はほとんどない。

英エコノミスト誌の“Quality of Life”調査では、所得、政治の安定性、治安、家族やコミュニティの活力、健康、衛生状態等を基準にした「住みやすい国」ランキングで、111カ国中アイルランドが第一位に選ばれた。

特に、世界第四位の一人当たりGDP(国内総生産)と安定した家族やコミュニティの伝統的なつながりが評価された。

2. 政治・経済

1922年イギリスより独立し、第二次世界大戦前より中立政策を掲げている。国連外交を重視し、PKOには積極的に参加している。1973年以来のEU(旧EC)加盟国であり、EU重視政策をとっている。現在はアハーン首相率いる中道右派政権下にある。

かつてはさしたる産業もなく、ヨーロッパの最貧国と言われていたが、1990年以降の積極的な外資導入、IT産業等ハイテク分野の振興策により、特に、2000



年までは著しい経済成長を成し遂げており、他のヨーロッパ諸国からは、Celtic Tiger(ケルトの虎)とまで言われた。2001 年後半より米経済減速、国内インフレ率上昇等の影響を受け伸び率は鈍化したが、2004 年には緩やかに回復するものと予測されている。

失業率は 1990 年の 17.2%から、大幅に改善しここ数年は 4%台に落ち着いている。

3. 対日関係

古くより政治、経済とも日本とは良好な関係にある。

貿易に関しては 1999 年以来、日本側から見て入超の状況が続いている。アイルランドからの主要輸入品目は、有機化合物、コンピューター、医療用機器、光ファイバーである。輸出品の筆頭は自動車であり、アイルランドの日本車シェアは約 30%である。

日本からの投資は 1980 年以降増加し、現在日本企業 40 数社が進出しているが、その投資額はイギリス、オランダ、フランス、ドイツに次いで、EU 諸国中、第 5 位である。良質な人材確保、アイルランドの外資優遇策等がインセンティブとなっている。

第2章 タイディタウン・コンテスト (Tidy Towns Competition)

1. 経緯

タイディタウン・コンテスト(=美しいまちコンテスト、以下コンテスト)は1958年にスタートし、今年で47回目である。最初は、最貧国とも言われた自国の外貨収入を少しでも増やすべく、当時弱かった観光をプロモートするための、つまり海外からの訪問者を獲得するためのクリーンアップ運動、「ゴミ拾い」運動であった。運動を進めてゆく中、30年ほど経った時点で、重点が環境改善に移行した。観光から環境にシフトしたことで、1995年には主管庁も観光省から環境省に代わり、現在に至っている。

第1回の参加数は、わずか52市町村であった。それがここ数年は約700市町村と飛躍的に増加しており、関係者も極めて満足している。これだけの数が参加すれば大成功である。

アイルランドの市町村総数は約3,000であるが、この1/3の1,000市町村にTidy Towns委員会が組織され、中700がコンテストに参加している訳である。差の300は入賞を狙えるようになるまで満を持しているとのことであり、興味がない訳ではない。

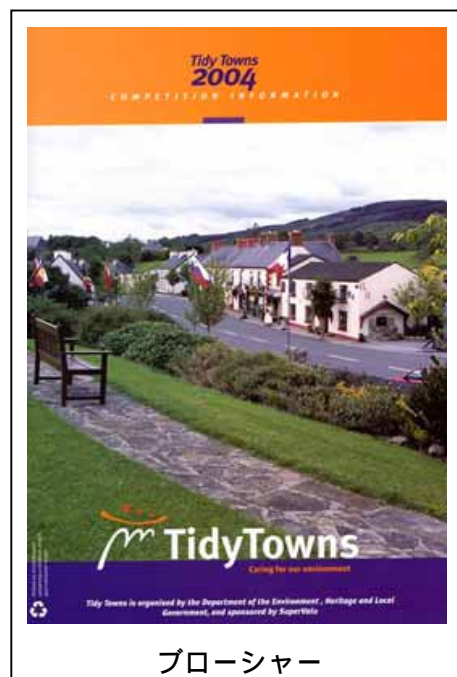
なお、Tidy Towns委員会の構成メンバーはすべてボランティアである。当該委員会は地方行政との橋渡しの役割も演じており、最近ではその発言権は増している。

2. 概要

目的： 市町村の環境と生活のクオリティを向上させること、具体的には「みんなが住みたい、働きたい、訪問したい、より魅力あるところとする」ことが主目的である。

主催： 環境・遺産&地方行政省が主催し、事務局である“Tidy Towns Unit”が運営する。

日程： 毎年ほぼ同じ時期に実施されるが、2004年を例にとれば、4/07に募集開始、5/14締め切り、6月から8月にかけて一次および二次審査を行った上、9月に結果を発表する。なお、表彰式は7つの地区毎に10~11月に行われる。



参加費：人口により市町村が6つに分類され、200人未満の12ユーロから、10,001人以上の150ユーロまで、それぞれの参加費を支払ってコンテストに参加する。

応募：所定の応募用紙、まちづくりプランと地図、関係書類、写真に上記参加費を添えて応募する。

評価：評価は2段階、大きくは9つの項目にて評価するが、それぞれに配点基準が設定され、合計300点満点で競う。一次で7地区からの代表者および行政により評価点がつけられ、上位者(2004年は125市町村)に対し二次評価がなされる。二次では、一次とは別の選ばれた評価者(識者)が、抜き打ちで対象市町村を訪れ、実際にまちを見て廻る。なお、数年前より「Tidy Towns ハンドブック」が作成され、どのようにしたら評価されるか等を詳しく紹介している。

< 評価ポイントおよび配点 >

- ・ 全体的アプローチ 50点
3-5年アクションプラン / 年毎の目標達成具体策 / 地域全体の参加意識
アイルランド語 (2ヶ国語) 表記
- ・ 建築物(40)・景観(40)・野生生物(30) 110点
*ビル&街路の材質・模様・カー / 遺産的建造物の保護 / 未開発地の取扱い / 壁に書かれたサイン・電線が無いこと / 公衆トイレの状態
*木・かん木・花の選定 / 植樹地区の維持管理 / オープンスペース管理
*自然生物生息地区の保護 & 当該地区へのアクセス / 野生生物保護の具体策
- ・ ゴミ処理(40)・綺麗さ=Tidiness(20) 60点
*ゴミ&不法投棄物が無いこと / ゴミ処理方法 / 域内の住民意識
*リサイクル施設の場所・色 / 落書きの無いこと / 歩道・ビル周囲の雑草除去
- ・ 居住地区 30点
家屋 / 境界の壁・フェンス / 花木 / 公共のオープンスペース / 町の中心等への標識(2ヶ国語)
- ・ 道路、街の裏側 40点
街路・通り・歩道 / 橋・パーキング / 身体不自由な人々へも配慮した横断歩道 / 標識(2ヶ国語)
- ・ 一般的印象 10点
全体的な町・村の表現 / 難題解決への努力

賞(Awards)：最も美しい「村」、「小さなまち」、「大きなまち」の3市町村の中から毎年優勝者(National Award Winner=Ireland's Tidiest

Town)を決める。賞金は 15,000 ユーロ (210 万円)。連続優勝を含め、何回でも優勝可能である。

その他、スポンサー(現在 5 社、5 団体および環境・遺産&地方行政省)により、全国 7 つに分けられた地区のそれぞれの No.1 に与えられる地区賞や努力賞、景観賞、最優秀新規参加者賞等々、多くの特別賞が用意されている。

各人口カテゴリー毎の上位得点者には、金・銀・銅のメダルが授与され、受賞者には“ Medal Winner ”の道路標識が、市町村の入り口に立てられる。但し、翌年受賞できなかった場合は撤去される。

また、毎年常に新しい賞が検討されており、参加者を飽きさせない工夫をしている。

表彰式： 各地区毎に 10 月から 11 月にかけて行われるが、例えばダブリン地区では 11 月 2 日、郊外のマラハイド城にてとり行われた。

ダブリン地区の最優秀者はマラハイド、賞状・楯・メダルをボランティア代表が受け取った。マラハイド城所在のまちである。他の受賞者も次々と表彰されたが、「誉める」ことの意義は大きい。

コンテストは概ね上記のとおり実施されているが、国の年間予算は約 500,000 ユーロとのことである。なお、最大スポンサーである SuperValuからは、2 年契約であるが、年間約 1,000,000 ユーロの支援がある。

3 . 2004 年の結果



| | |
|------|--|
| 1990 | <i>Malahide</i> , Co. Dublin |
| 1991 | <i>Malin</i> , Co. Donegal |
| 1992 | <i>Ardmore</i> , Co. Waterford |
| 1993 | <i>Keadue</i> , Co. Roscommon |
| 1994 | <i>Galbally</i> , Co. Limerick |
| 1995 | <i>Glenties</i> , Co. Donegal |
| 1996 | <i>Ardagh</i> , Co. Longford |
| 1997 | <i>Terryglass</i> , Co. Tipperary (NR) |
| 1998 | <i>Ardagh</i> , Co. Longford |
| 1999 | <i>Clonakilty</i> , Co. Cork |
| 2000 | <i>Kenmare</i> , Co. Kerry |
| 2001 | <i>Westport</i> , Co. Mayo |
| 2002 | <i>Castletown</i> , Co. Laois |
| 2003 | <i>Keadue</i> , Co. Roscommon |
| 2004 | <i>Lismore</i> , Co. Waterford (Front Cover) |

1990 ~ 2004 優勝市町村

2004 年の主要 3 賞受賞者および最終評価点は以下のとおりである。賞金はそれぞれ 3,000 ユーロ。

Tidiest Village (人口 1,000 人以下)=
Moynalty (274 点)

Tidiest Small Town (5,000 人以下)=
Lismore (275 点)

Tidiest Large Town (5,001 人以上)=
Westport (2 年連続、274 点)

この中から、優勝者(National Award Winner)として、リズモアが選出され、アイルランドで最も美しいまちとなった。なお、金メダルは 15 市町村が獲得した。

ところで、昨年の Tidy Towns 優勝者は

Kaedue (ケイジュー)であったが、これは 1993 年について 10 年ぶり 2 回

目である。人口 150 人の村であるが、125 人が Tidy Towns 委員会のメンバーということで、ほとんど全ての村民が運動に参加していることになる。

4 . 関連 3 コンテスト

Tidy Towns Competition の他にも、景観関連 3 つのコンテストがある。

“ City Neighbourhoods Competition ” は、Tidy Towns Competition の大都市バージョンまたは補完システムと言えるものであり、最近試験的に導入された。ダブリン等 5 大都市の居住地区および商業地区を対象とした、「美しいエリア」、「美しい通り」を競うコンテストである。従って参加単位も自治会、住民団体、商工会等になる。基本となる “ Best Residential Area ”、“ Best Urban Village ”、“ Best City Street ”の三賞それぞれの受賞者の中から、“ City Neighbourhood of the Year(優勝) ” が選ばれる。

次いで、“ Ireland’s Best Kept Towns Competition ” は、全アイルランド統一のコンテストであり、1996 年に北アイルランドとの融和を目指し始められた。北アイルランドで実施されている Best Kept Awards とアイルランドの Tidy Towns Competition 双方の主要な賞を前年受賞した市町村が対象となり、これらの中から、北を含めた全アイルランドの優勝者(Ireland’s Best Kept Town)を決定する。今回は 2003 Tidy Towns Competition の Tidiest Large Town となった Westport が選出され、6 月ベルファーストにて表彰された。

最後は、EU 全体が対象で今回は 11 カ国が参加の、花をテーマとしたコンテスト “ Entente Florale ” である。25 年ほど前、イギリスとフランスの間で始められたものが発展して、現在の形になっている。目的は「コミュニティ生活の質的向上」であり、具体的には町村の緑化の度合い、花・かん木・緑のスペース・公園の状態を重視している。参加数が多いため優勝者は決めず、評価点により金・銀・銅賞を授与している。当コンテストで金賞を受賞すると訪問者が著しく増えるとのことである。アイルランドは 2001 年ホスト国を務めている。



Tidy Towns 事務局

5 . Tidy Towns 事務局の仕事

ダブリンの環境・遺産&地方行政省内に Tidy Towns の事務局が設置され、コン

テストを運営している。繁忙期にはもう1名の増員で対応しているものの、常駐スタッフは2名のみで、スポンサーとの契約、プロモーション作成、コンテストの立上げ、応募受付、評価者選定・打合せ、表彰式準備等、1年中たいへん忙しい。しかもメインのタイディタウン・コンテスト以外に既述3つのコンテストも運営している。

また、事務局はTV、ラジオ、新聞を使い当コンテストの周知に努めており、特に、TVについてはゴールデンタイムにスポットを買っているとのことである。永年の運動の歴史と相まってマスコミ対策が奏効しているようで、平均的な市民であるタクシーのドライバー数人に聞いてみたが、皆コンテストのことはよく理解していた。

6. 課題



目下、最大の課題はゴミとの戦い、これは国全体の問題であると同時にEU全体の問題でもある。Race Against Waste (RAW)を、現在はコンテストの別プログラムとして実施しており、今回は賞金も設定して、廃棄物の量削減およびリサイクルにつき競わせた。

120市町村の参加があったが、2006年にはコンテスト本体に組み込みたいと考えている。この際、現行300点満点を500点満点とし、ゴミ処理の配点を大きくする予定であるが、この問題の深刻さを感じ取ることができる。

Reduce、Reuse、Recycle(削減、再使用、リサイクル)の3RがRAWのスローガンであり、中でも削減は最重要ポイント、量が少なければ問題も少ないという極めてシンプルな発想である。

各市町村の「Tidy Towns 委員会」構成メンバーの男女の比率は、ほぼ50：50と理想的であるが、古くからのメンバーが多く、高齢化が悩みのタネになりつつある。特に、30代、40代の参加が望まれるとのこと。若年層対策の一つとして、「ジュニア Tidy Towns 委員会」を現在までに20設置し、10～18才を対象に、学校等で啓蒙運動を始めている。将来、彼らがTidy Towns運動に参加することを期待している。なお、来年以降は当ポイントもコンテストの評価点に含める計画である。

もう一つの課題は、参加しやすいようエリア毎の参加形態にしたにもかかわ

らず、特にダブリンで見られるように、大都市からの参加数が少ないことである。試験的に City Neighbourhoods Competition という他のプログラムにて対応しているが、本来はエリア単位でタイディタウン・コンテストに入ってくるのが望まれる。

いずれにせよ、上記のような課題に対しても、時間を移さず、かつ柔軟に対処策を講じ、実行するところが Tidy Towns のすごさでもある。

第3章 リズモア（2004 Ireland's Tidiest Town）

1. まちの概要

リズモアはダブリンから南に約 200km、ブラックウォーター川沿いの古い小さなまちである。636 年につくられた修道院がまちの起源と言われている。その後、ヴァイキングやノルマン人の侵略も受けた。

象徴は 1185 年に完成したリズモア城であるが、現在は第 12 代デボン州公爵がオーナーである。



ミレニアム公園

リズモアはアイルランド「遺産のまち」にも指定されている。なお、Lismore は「大きなとりで」を意味するアイルランド語の“Lios Mor”からきている。ちなみに、温度一定の場合、気体の体積は圧力に反比例という「ボイルの法則」で有名な科学者ロバート・ボイルは、リズモア城が生誕の場所である。

2. コンテスト参加

コンテストには 17 年位前から参加している。現在、「リズモア Tidy Towns 委員会」のメンバーは総勢 25 人、もちろん全員ボランティアである。このまちの人口は 1,200 人、中 240 人、すなわち 5 人に 1 人が、決められた場所の花木を手入れしたり、ゴミを片付けたりと、何らかの形で Tidy Towns 運動にかかわっている。訪問したその日も、女性が道路上のゴミを拾っているのを目撃した。また、“スウィーパー”と愛称で呼ばれる清掃車が、落ち葉をせっせとかき集めていたのが印象的であった。

まちのサイズがちょうど日本の自治会位ということもあり、情報の伝達・共有がスムーズに行われている様子で、今ではすべての町民が Tidy Towns 運動に高い関心を示しているとのことである。

委員会は行政への意見具申も行っており、その増加した発言力の一環ではないかと推察されるが、柵、塀、街路灯、橋、道路等、公共物も非常に良い状態で維持管理されている。なお、多くの公共物のカラーは「金と黒」に統一されており、引き締まった感じを与えている。

3. 2004 年の結果

リズモアは、2003 年コンテストでは、全国優勝こそ逃したが、人口規模毎

の上位得点者に与えられる「金メダル」を獲得しており、まちの入り口にはその標識が立てられている。

2004 年は全国優勝の他に、「最も美しい小さなまち」「金メダル」「地区優勝」

「州優勝」と5つ

の賞を獲得してお

り、賞金の合計は

20,700 ユーロ(約

300 万円)になる。

なお、後者3つは

2 年連続受賞。

優勝の評価点は、

昨年から 8 点改善

し 275 点、特に、

ゴミ処理と居住地区環境を向上させた実績が評価された。

| | Max. | 2004 | 2003 |
|--------------------------------|------------|------------|------------|
| Overall Developmental Approach | 50 | 47 | 46 |
| The Built Environment | 40 | 36 | 36 |
| Landscaping | 40 | 39 | 38 |
| Wildlife and Natural Amenities | 30 | 27 | 27 |
| Litter Control | 40 | 38 | 36 |
| Tidiness | 20 | 18 | 17 |
| Residential Areas | 30 | 25 | 23 |
| Roads, Streets and Back Areas | 40 | 36 | 35 |
| General Impression | 10 | 9 | 9 |
| TOTAL MARK | 300 | 275 | 267 |

リズモアの評価点

ある夏の日、突然審査員が現れ、ルール通り抜き打ちでコンテストの最終評

< 最終評価者の主たるコメント >

- ・ 緊急の案件と将来的な案件を切り分けた、まちづくりの計画手法はたいへん現実的であり、他の地区もコピー可能である。
- ・ リズモアの美しさは、古いものと新しいものを上手く融合させた点にある。
- ・ 訪問者がまちに近づくにつれ、木々、花、かん木が良い具合に配置されており、どの方向からもこれを楽しめる。
- ・ 地域のコミティー、ボランティア、住民いずれもが努力した結果、リズモアはすばらしい雰囲気醸し出すことに成功している。
- ・ 散歩道、用水、公園等の存在により、野生動物の観察ができる機会を多く提供している。校庭の木々に巣箱を設置すればもっとよいかも…。
- ・ 清潔かつきちんとまちが片付けられ、生活環境を守ろうとの住民の意思表示が明確である。
- ・ 住宅街のほとんどの、特に新しい家には花いっぱいの庭があり、庭のない家も窓辺のハンギング・バスケット、プランターに花を飾っている。
- ・ 過去にも着実な努力を積み重ねており、今回それが報われたことになる。
- ・ 今後も歴史遺産を大切にしながら、美しいまちづくりに邁進するとの方針を打ち出している。

働が行われたが、その日リズムアのまちには全くゴミは落ちてなかったとレポートにある。

優勝後には、全国各地からお祝いの手紙、はがきが多数寄せられており、メインストリートにある信金のウィンドウにディスプレイされている。また、他のヨーロッパ諸国および国内各地からの訪問者が増えており、特に、イギリスなどからは、移住したいとの問い合わせもある。すでに移住している人たちもいるとのことである。

2005 年春には、大統領が優勝の「飾り板」を贈呈するため、リズムアを訪問する予定とのことである。過去の飾り板同様、まちの中の壁とか置石にさりげなく埋め込まれるものと思われる。

4 . 今後の展望



リズムア・メインストリート

リズムアの住民にとっては、まちそのものが誇りであるが、中でも「人」が最大の誇りである。路上で出会った人々は、皆挨拶を交し、人懐っこく、親切であった。ずっとこのまちに住み続けたいと思っている人が大多数であるとの感触を得た。

もちろん、ダブリン等の大都市に出て行く若者もい

るが、全体としてまちの人口はむしろ増えているとのことであり、周辺部には新しい住宅街がいくつか造られていた。

賞金はこのまちにとっては、かなりまとまった額になっているが、用途は今後メンバー間で協議することとしている。連続優勝を目指し「景観づくり」に再投資されるものと思われる。「来年も今年以上に改善する」とっており、まもなくその準備に入るようである。連続優勝が可能なコンテストになっているため、来年もまた頑張ろうとの意欲を自然にかきたてている。

「次来る時には、もっと美しくなっているのではないか」との期待を抱かせ、訪問者を引き付けて止まないまちである。来年が今から楽しみである。

5 . おわりに

当コンテストは、市町村が競争し、努力に対する認知を得、賞を授かる、「場」を提供しており、競争原理を上手く利用して、互いに刺激し合あう仕組みを作り上げている。これが 50 年近くも続いている秘訣だと思われる。Tidy

Towns はアイルランドでの、否、ヨーロッパで最も成功したボランティア運動の一つであると言えるのではないか。

“Tidy” という言葉には「きちんとした」とか「きれいに片付けられた」とのニュアンスがあり、専門家でなくとも一般市民が気軽に参加できるとの雰囲気があるようで、この言葉一つにも工夫がある。

景観保全で最も大切なことは、人々が住んでいる地域において “Pride of Place”、その地域のオーナーであるとの誇りを持つこと、との Tidy Towns 事務局考え方には 100% 共鳴できる。次の世代に上手く引き継ぎが行われ、コンテストがますます磨かれたものになっていくことを祈念したい。

* * *

日本でも 2004 年 6 月に「景観法」が成立、12 月には施行され、地方自治体および住民の景観運動に対するバックアップの枠組みが整った。現在それぞれの地域で個々に行われている、また、これから新たに始まる、景観をベースとしたまちづくり活動が、アイルランドには 50 年先を越されたものの、ごく近い将来「日本版タイディタウン運動」に発展していくことを願って止まない。

了



[参考資料]

- ・ アイルランド大使館 web site
- ・ 外務省 web site
- ・ Irish Times web site
- ・ BBC web site
- ・ Department of the Environment, Heritage and Local Government の Tidy Towns 関連資料